

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和4年度 第1回豊島区 生活安全協議会 セーフコミュニティ推進協議会 総合高齢社会対策推進協議会
事務局 (担当課)		政策経営部セーフコミュニティ推進室 総務部治安対策担当 保健福祉部総合高齢社会対策推進室
開催日時		令和4年7月27日(水)午前10時30分～12時10分
開催場所		本庁舎 507～510 会議室
議題		1 開会 2 豊島区セーフコミュニティの歩みと成果 3 推進協議会委員と認証審査員との懇談 4 認証審査員からの質疑 5 閉会
提出された資料等		資料1 令和4年度のスケジュールについて 資料2 審査員プロフィール 資料3 豊島区セーフコミュニティの歩みと成果 資料4 委員名簿 参考資料1 総合高齢社会対策の取り組みについて
公開の可否	会議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者 (順不)	会長 代理	副区長 齊藤 雅人

同、敬称略)	委員 【区内 団体】	池袋西地区環境浄化推進委員会委員長 外山 克己 豊島区高齢者クラブ連合会会長 (同上) 豊島区町会連合会副会長(第3地区) (同上) セーフコミュニティ対策委員長(地震災害の防止) (同上) 豊島区商店街連合会会長 菊池 章二 豊島区町会連合会会長 片桐 昌英 NPO 法人ソメイヨシノの里ひろば駒込理事長 (同上) 豊島区町会連合会副会長(第10地区) (同上) 東京商工会議所豊島支部会長 渡邊 裕之 豊島区観光協会名誉会長 齊木 勝好 豊島区観光協会 会長 近江 正典 豊島産業協会会長 (代理)伊東 伸治 豊島区民生委員児童委員協議会会長 寺田 晃弘 長崎第一地区民生委員児童委員協議会会長 (同上) 豊島区民社会福祉協議会会長 (同上) 豊島区障害者団体連合会会長 磯崎 たか子 豊島区青少年育成委員会連合会会長 白熊 千鶴子 豊島区医師会会長 (代理)細谷 純二 東京都豊島区歯科医師会会長 高田 靖 豊島区薬剤師会会長 佐野 雅昭 豊島区町会連合会副会長(第1地区) 古沢 秀明 豊島区町会連合会副会長(第6地区) 足立 憲昭 豊島区町会連合会副会長(第7地区) 田中 英治 豊島区町会連合会副会長(第8地区) 青柳 徳俊 豊島区町会連合会副会長(第9地区) 塚田 義信 豊島区町会連合会副会長(第12地区) 竹野 康二 NPO 法人南大塚おひさまひろば理事長 (同上) セーフコミュニティ対策委員長(高齢者の安全) (同上) 区民ひろば朋有運営協議会会長 石川 宜司 NPO 法人池本ひろば理事長 森 淑夫 区民ひろば池袋運営協議会会長 西山 隆 NPO 法人おおきな木理事長 直井 浩 NPO法人ひろばさくら理事長 本山 美子 NPO 法人みみずくの杜理事長 杉岡 敏弘 巣鴨地区民生委員児童委員協議会会長 松浦 初枝 池袋東地区民生委員児童委員協議会会長 佐々木 敬彦
--------	------------------	---

	巣鴨防犯協会会長 吉井 公明 90 周年実行委員会 区民実行委員(セーフコミュニティ部会) (同上) 目白防犯協会会長 森田 晴久 池袋母性協会会長 波多野 まつ江 池袋組織犯罪根絶協会会長 菅澤 省吾 目白母の会会長 田島 芳子 日本ガーディアン・エンジェルス理事長 小田 啓二 豊島防火防災協会会長 関根 靖俱 池袋消防少年団団長 西野 浩通 池袋西口商店街連合会会長 谷口 政隆 豊島区体育協会会長 吉波 克昌 豊島区ラジオ体操連盟会長 本橋 弘隆 豊島区スポーツ推進委員協議会会長 寺門 孝史 豊島区ボーイスカウト連絡協議会長 鈴木 順一 東京都宅地建物取引業協会豊島支部社会貢献委員長 (代理)河畑 洋子 東京都建築士事務所協会豊島支部支部長 小山 清弘 全日本不動産協会豊島文京支部支部長 荻原 武彦 90 周年実行委員会 区民実行委員(セーフコミュニティ部会) (同上) 池袋交通安全協会会長 山本 昇 池袋交通少年団団長 今田 充保 目白交通少年団団長 横田 喜廣 90 周年実行委員会 区民実行委員(セーフコミュニティ部会) (同上) 豊島区立中学校PTA連合会副会長 塩川 義宗 豊島区地区青少年育成委員会会長(第 6 地区) 根岸 幸子 豊島区地区青少年育成委員会会長(第 9 地区) 中島 留美子 豊島区地区青少年育成委員会会長(第 11 地区) 山本 道子 池袋四丁目町会会長(公募委員) 平田 光子 目白地域交通安全活動推進委員協議会会長 唐澤 和子 東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会会長 (同上) セーフコミュニティ対策委員長(自転車利用の安全) (同上) NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク理事長 栗林 知絵子 大正大学 地域構想研究所事務部部長 佐藤 和彦 豊島区民社会福祉協議会事務局長 (代理)大竹 宏和 豊島区シルバー人材センター事務局長 栗原 章 公募委員 石川 サチ子 セーフコミュニティ対策委員長(子どものけが・事故予防) 武居 裕子
--	--

		セーフコミュニティ対策委員長(障害者の安全) 長谷川 則之 セーフコミュニティ対策委員長(児童虐待の防止) 高田 慶子
	委員 【ISS 認証校】	豊島区立千川中学校校長 永野 祥夫 豊島区立さくら小学校校長 後藤 大輔
	委員 【官公庁】	警視庁巣鴨警察署長 (代理) 斎藤 直樹 警視庁池袋警察署長 (代理) 久保川 慎治 警視庁目白警察署長 (代理) 木下 健一郎 東京消防庁豊島消防署長 内田 元高 東京消防庁池袋消防署長 金枝 俊宏 東京都第四建設事務所所長 香月 高広
	委員 【区】	副区長 齊藤 雅人 副区長 高際 みゆき 教育長 金子 智雄 危機管理監 岡谷 晃治 セーフコミュニティ対策委員長(繁華街の安全)(同上) 保健福祉部長 田中 真理子
	区職員	セーフコミュニティ推進室長 櫛島 匠 治安対策担当課長 三國 智史 総合高齢社会対策推進室長 三沢 智法

【1 開会】

(セーフコミュニティ推進室長)

皆様、おはようございます。

ただ今より、豊島区セーフコミュニティ再々認証 現地審査を開会いたします。なお、本日は、セーフコミュニティ推進協議会、生活安全協議会、総合高齢社会対策推進協議会を兼ねての開催となります。

私は、本日、司会を務めさせていただくセーフコミュニティ推進室長の櫛島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、会場の皆様をご紹介いたします。豊島区セーフコミュニティ推進協議会会長 豊島区長 高野 之夫につきましては、本日公務のため欠席しております。

つづきまして、豊島区議会 議長 木下広様、豊島区議会 副議長 永野裕子様です。

つづきまして、関係官庁の皆様をご紹介いたします。東京消防庁豊島消防署長 内田 元高様、東京消防庁池袋消防署長 金枝 俊宏様です。警視庁巣鴨警察署長 平沢 信行様の代理でご出席の生活安全課長 斎藤直樹様、警視庁池袋警察署長 西川秀樹様の代理でご出席の生活安全課長 久保川 慎治様、警視庁目白警察署長 藤田 義徳様の代理でご出席の生活安全課長 木下 健一郎様です。東京都第四建設事務所長 香月 高広様です。

つづきまして、90 周年区民実行委員会セーフコミュニティ部会委員の皆様をご紹介します。巣鴨防犯協会会長 吉井 公明様、全日本不動産協会豊島文京支部支部長 荻原 武彦様、目白交通少年団団長 横田 喜廣様、区民ひろば長崎運営協議会副会長 樋口 富士雄様、トキワ壮協働プロジェクト協議会事務局長 一乃瀬 光太郎様です。

なお、セーフコミュニティ対策委員会委員としてもご活躍いただいております、荻原様、横田様、樋口様におかれましては、後ほど審査員へのご発言をいただく予定でございます。

つづきまして、推進協議会委員の皆さままでございます。

つづきまして、海外審査員の皆様をご紹介します。台湾よりご参加の主審査員 パイ・ル先生です。韓国よりご参加の副審査員 チョ・ジュンピル先生です。ルーマニアよりご参加の副審査員 ルシア・ロトリーン先生です。

つづきまして、今回の現地審査に支援いただいております、日本セーフコミュニティ推進機構の白石陽子先生です。白石先生には、通訳もお願いしております。

それでは、現地審査の開催にあたり、齊藤副区長よりご挨拶を申し上げます。齊藤副区長、よろしくお願いいたします。

(齊藤副区長)

皆さま、おはようございます。今も新型コロナウイルスの感染が広がっている中で、今日もしっかりと感染対策を行いながら皆さまとともに過ごしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今日は、2012 年に豊島区がセーフコミュニティの国際認証を得てから 10 年目となり、3度

目の審査を今日から3日間審査を行うこととなっています。今日は先ほどご紹介いただきましたように、審査員として、パイ先生どうもお久しぶりでございます、そしてチョ先生お久しぶりでございます、そしてルシア先生初めまして、以上のお三方に、豊島区の取組について今日から3日間ご審査いただきまして、区としてこれまで皆さまと続けて参りました、安全安心の活動、豊島区オリジナルの、またオリジナルではありますけれども WHO が推奨するセーフコミュニティという考え方に基づく豊島区の活動について、しっかりと見せたいと考えております。いつも高野区長もおっしゃいますが、認証が目的ではない、認証を受けることによって第三者の目と言いますか、外からの目で、国際基準で豊島区の活動を評価していただくこと、またそこから得たものを私たちの、また皆さまの活動に改めて活かしていく重要な節目となりますので、よろしく願いいたします。日本では今、13 の自治体がセーフコミュニティ活動を豊島区とネットワークをつなぎながらやっております。今日は、全ての自治体が豊島区の審査をリモートで聴講しているということでございます。

10 年間、豊島区は9つの対策委員会で皆さまのお力を持ちまして活動して参りましたが、10 年間の継続は価値ある継続であり、豊島区にとって大きな力となったと思います。また、区民ひろばはセーフコミュニティ活動の実践の拠点として、多くの皆さまと一緒に活動して参ったところです。さらにインターナショナルセーフスクールは、小中学校で 10 校が認証を取得しておりますが、まさにオールとしまの安全安心の活動として 10 年間続けることができたと思っております。対策委員会の皆さまと、しっかりと審査員の皆さまからご審査いただきまして、次のステップに進みたいと考えておりますので、どうか皆さまのお力添えをお願いし、私のあいさつとさせていただきます。

本日はありがとうございます。よろしく願いいたします。

(セーフコミュニティ推進室長)

齊藤副区長ありがとうございます。続きまして、審査員の皆さまにご挨拶をいただきます。それでは、パイ先生、お願いいたします。

(パイ審査員)

それでは、主審査員の私からまずごあいさつさせていただきます。豊島区さんはセーフコミュニティを長く進めてこられ、これまでも私たちにより事例を紹介していただきました。今回は3回目の認証ということで、既に私どもは申請書を拝見しておりますので、こういう部分を延ばしてこられたということを書面では文字では、確認させていただいておりますが、やはり皆さまの顔を見て直接伺うことで学びが多くなると思います。これから3日間、皆さまからいろいろなご報告をいただけることを楽しみにしております。豊島区は日本の中でも初期からセーフコミュニティに取り組んでこられ、引っ張ってこられたお立場だと思いますので、私たちも皆さまの取組から多くのことを学ばせていただきたいと思います。コロナ禍で安全のリスクがなくなったわけではないので、リスクを抱えながらどうやったらよりまちを安全になるかを考えてこられ

たことをうれしく思います。今日は齊藤副区長のお顔を拝見できましたが、公務のため区長には直接ごあいさつできませんでしたので、どうぞよろしくお伝えください。

(チョ審査員)

皆さまおはようございます、チョ・ジュンピルです。今回3回目の豊島区の審査となります。豊島区は私にとって近い存在として見守って参りましたので、審査を担当できることを楽しみにしています。最初の認証審査と比べて豊島区の間組がどう変わって来たか、お聞かせいただけることを楽しみにしています。そして、日本セーフコミュニティ推進機構の白石より折に触れ、豊島区がよりよいまち、より安全なまちになるよう日頃からがんばっていらっしゃるのを伺っております。またセーフスクールも熱心に取り組まれていること、セーフスクールは将来の人材育成にもつながりますし、そういった部分がどのようにまちづくりに繋がっていくのかという視点でも楽しみにしています。

(ルシア審査員)

皆さまおはようございます、ルーマニアから失礼します。ルーマニアは日本より6時間遅れておりますので、早朝の4時です。今日の日を迎えるにあたって、3人で申請書を拝読させていただき、工夫の成果を確認させていただいております。3日間いろんなお話のやりとりができることを楽しみにしています。皆さまがんばってください。よろしくお願いします。

(セーフコミュニティ推進室長)

審査員の皆さま、ありがとうございます。

続きまして、これまでの「豊島区のセーフコミュニティの歩みと成果」について、簡単ではありますが、私からご説明させていただければと存じます。

【資料3 豊島区セーフコミュニティの歩みと成果】に基づき説明。

(セーフコミュニティ推進室長)

ご清聴ありがとうございます。それでは、これより、少しの間ではありますが、審査員と委員の皆さまの懇談の時間といたしたいと存じます。ご発言いただく委員におかれましては、私からお名前をお呼びいたしますので、その場でお立ちになり、ご発言いただければと思います

荻原委員、お願いいたします。

(荻原委員)

荻原でございます。セーフコミュニティは既に10年経つということですが、さらにこの先の5年をどういうふう構築し維持していくかということが非常に大切だと思います。私どもにとりまして、2011年3月の三陸沖の地震は非常に大きな教訓となっています。いつ起こるかわか

らない、しかし必ず起こる地震災害に対して、常に注意喚起をすることが必要だと思います。またいつ起こるかわからないということは夜起こるかもしれないということもありますので、自宅での備え、家具の転倒防止は皆さんなさってらっしゃると思いますが、いつ起こるかわからないということは逆に起こらないかもしれないという油断につながるかもしれません。豊島区でいつも起こりうることだと注意喚起をしていただく中で、私たちも意識し、合わせて長期保存できる食糧を用意しておくこと、万が一の時の家族の間の連絡方法を確認しておくことも必要だと思います。一方で、豊島区あるいは東京都で何かあったときの避難場所を確保し、ここに避難場所がありますという周知を日頃から行っていただきたくことでいざというときに避難の行動ができるということ、もう一つは緊急時にすぐどこかに行くのではなく、一定程度留まったうえでそれから行動することを周知していただくことが必要だと思っています。

先ほどセーフコミュニティ9つの対策員会があるところのご紹介がありましたが、地震災害の防止対策委員会の中でもいろいろなことをやっていきたい、これに対し豊島区でご協力いただき、ご指導を期待したいと思います。

(セーフコミュニティ推進室長)

荻原委員、ご意見ありがとうございます。ただいまのご発言について、審査員の皆様からは、アドバイスやご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

(パイ審査員)

状況をお聞かせいただきありがとうございます。非常に難しい問題だと思います。いろいろな立場の方がいらっしゃる中で十分な備えを進めていくことは簡単なことではないと理解しています。台湾も地震が多く、同じ課題を抱えています。ただ、セーフコミュニティのよいところは継続できること、振り返りをしつつ前に進むことができるということです。豊島区は長期間進めているので、この仕組みをうまく活用していくことがメリットだと思っています。なぜならコミュニティは変わっていきます。豊島区は人口規模が大きく、年齢層を含めいろんな方がいらっしゃり、新しい方もどんどん転入されるでしょうし、コロナが落ち着けば海外の方もたくさんいらっしゃるでしょうし、そのような中で、常に万全というのは難しいと思います。もし状況が固定していれば、ここまでくれば万全だと見えて来るかもしれませんが、環境も時代も変わっていく、災害もその度に違う中で、万全は難しいです。だからこそ継続することが大切だと思います。豊島区で多くの方がセーフコミュニティに長く関わってくれていることは財産です。海外では安全の取組がストップしている国がある中で、コロナ禍でもハイテクや新しいやり方を導入されています。コロナ禍でいろいろなやり方が通用しなくなったこともあり、これからはいかに柔軟に考えて対応することがポイントだと思います。お話しいただいたように日常の準備も大切ですし、いろんな環境の方が日頃からどういう風にできるかに目を配っていけば、それぞれの立場の方が準備できるようになると思います。

日本は地震大国であるが故に経験も豊富なので、新しいモデルを作っていただきたいと思

います。

(チョ審査員)

豊島区は人口密度が高い、人口規模が大きいという特徴の中で、地震の備えには苦慮しているのではないかと思います。そのような中で、セーフコミュニティの重点課題として地震に取り組まれているのは意義があると思います。多くのセーフコミュニティの取組はデータベースをもとに行っていると思いますが、地震は交通事故のように頻繁に起こるわけではなく、他の地区で起こったものを豊島区に置き換えて準備しなければならないという難しさがあります。それが自分事として捉えにくいひとつの要因になっているのかもしれないかもしれません。自分たちの生活に遠い出来事のように感じがちという難しさがあります。ただ、豊島区は 10年以上セーフコミュニティに取り組んでいるという財産がありますので、それをうまく活用してほしいと思っています。障害者の安全と地震の対策委員会と一緒にイベントを開催したように、子どもや高齢者、交通、繁華街などほかの対策委員会でもそれぞれの視点から、災害の予防を取り入れてみたり、イベントで繋がるのも一つの方法ではないかと思います。これらの取組は、対策委員会が日頃から機能しているからできることだと思いますし、このような取組みが広がっていけばよいと思います。

(セーフコミュニティ推進室長)

ありがとうございました。続きまして、横田委員、お願いいたします。

(横田委員)

目白交通安全団団長をしております横田と申します。自転車に乗る人が安全意識を十分に持てば、自転車事故は防げると思っています。私は車も運転しますが、その時に気づいたことをお話します。まず、横断歩道に自転車が停まっているときに、車道側に車輪が半分くらいはみ出していることがあります。また、横断歩道で歩行者の信号が青で点滅しているときに、急に自転車が猛スピードで渡ることがあります。基本的には、交通ルールやマナーを守っていれば事故は起きないはずですが、また、道路には行政が喚起をしている自転車用のマークがありますので、それを利用者がよく見ることも、事故減少につながると思います。また、自転車に乗るときは時間に余裕を持つことも大切だと思います。ご清聴ありがとうございました。

(ルシア審査員)

お話しいただいたことは、豊島区だけではなく他の日本の自治体、世界のいろいろな地域でも共通の問題だと思います。この状況を改善するにはいくつかの視点があると思います。まず自転車利用者の行動を変えること、もう一つはルールやマナーを守らないことができないように環境を変えること、もう一つは規制をかけることです。いろいろな方が動かないといけないし、どれもとても大変で時間もかかることは理解しています。その割にはみんなが耳を傾けて

くれるわけではなく、よい取り組みだと思っけていてもなかなか行動を変えてくれません。そこが非常に難しいことだと思います。

私の知り合いの研究者も子どもへの啓発など、どれか一つだけ頑張っても数字には表れませんでした。行動を変えるという個人の努力と、環境を変える行政の努力、ルールを変える法整備などいろんな側面が変わることでやっと成果が出てくることが分かったという事例があります。セーフコミュニティは誰かだけががんばるのではなく、行政も地域も関係組織が一体となってみんなが取り組むことができます。その仕組みが豊島区にはあるので、それぞれの視点から掘り下げて、ルールや環境、ハードだけではなくソフトな環境づくりもありますので、私たちだったらこれができるなど、それぞれが同じ課題に対しても分析ができれば豊島区でできることが出てくるのではないかと思います。

(パイ審査員)

私の事例を紹介させていただきますので、ご参考になればと思います。以前、アメリカの大学で研究をしていたときに、先生からインドの女性が塀を乗り越えようとしている写真を見せてもらいました。女性は高速道路を横切ってデパートに行こうとしています。女性はインドの伝統的なサリーという長い丈の服を着ています。女性の前には塀があってそれを乗り越えるとすぐですが、もしくは遠くにある歩道橋を渡るかという状況で、どちらが安全でしょうかということです。この事例をもとにおっしゃっていたのは、多くの方にやっていただくには簡単な方法でなければならないということです。すごく努力しなければ得られないという方法ではなかなか実践してもらえない、安全は最も簡単な方法がよいということです。多くの方に行動を変えてもらうためには、その方々にとって簡単にできるかと考えることも一つの方法だと思います。

先ほどルシア先生がおっしゃったように環境を整えることも大切ですが、それを使う方たちの意識も変えていかなければならない、人々にアプローチすることも大切です。ただ残念ながら安全だとわかってもしすぐに行動を変えてはくれません。私のように高齢になると、人間はだんだん頑固になります。それを見るときなぜ行動を変えてくれないのかと思ってしまいますが、逆にその方たちに主体者になっていただく、自分たちがこういう風にしようと言う側になっていただくと、人に言う限りは自分もやらなければならない、「この方もやっているなら、自分たちもできるかな」と思いますので、最もやってくれなさそうな人たちを巻き込んでアプローチすると行動を変えていただきやすいです。また、やってくれない方の行動を変えるヒントをいただけるのではないかと思います。

(セーフコミュニティ推進室長)

続きまして、樋口委員、お願いいたします。

(樋口委員)

どうもこんにちは、樋口です。私は区民ひろばの役員と民生・児童委員をしていますので、そ

の経験からお話をさせていただきます。豊島区に22あるひろばのうちの一つの役員をしています。できあがった当初は利用している人も役員もどの方向に向かっているかわかりませんでしたが、町会をはじめ大勢の方が3年ほど前からコロナの影響で制約が強くなり、高齢者もあまり区民ひろばに来ることができない状況になりました。今年になって催し物も少しずつ開催し、人数制限もしながら行っています。もともと区民ひろばに来館する高齢者は元気でしたが、外出制限により、久々に会うと元気が落ちているのが気になりました。これから区民ひろばでどうやってコロナ禍でも子どもからお年寄りまで参加できる催し物ができるかを考えながら少しずつやっています。

私は民生委員・児童委員で、特に後期高齢者の見守りを行っています。民生委員がお会いするお年寄りは、区民ひろばに来館している高齢者とはだいぶ異なり、一人暮らしであり外に出られない方が多いです。暑さ対策など気を付けるように声をかけながら、遠くから見守ることを行っています。豊島区はサポートしてくれる部署が多くありますので、私たちが連絡して助けを求める形で非常にうまくいっています。

それから私は、民生委員の中で、東京都の障害福祉部会長を3年間行っていました。障害者の視点でものを見ると、豊島区はほとんどの公園に車いすが入れる制度をやっていましたが、障害者の方がこのまちを普通に利用することは困難なこともあるので、これからもそのような制度を続けてほしいと思います。最後に場でもお願いしたいのは、駅で白杖を持っている方を見かけたら声をかけずに見守ってほしいと思います。この方々は人に肩がぶつかるとう方向感覚がゼロになるといわれておりますので、また声をかけるとびっくりする方もおりますので、声をかけずに、線路に滑落しないよう見守ってもらうようにお願いします。

(チョ審査員)

コロナの影響に焦点を置いて、お話しします。豊島区だけでなく世界中で生活様式が変わり、今までは「できるだけみんなと会いましょう、外に出ましょう」と言っていたのに、「できるだけ人と接しないよう、家にいましょう」と考え方自体も大きく変わりました。特に高齢者や障害者の方は余計に用心しないといけないということがあり、今のようにウィズコロナに変わっても、なかなか外に出ることができない、行動に踏み切れない状況があると思います。以前と全く同じような生活に戻ることは難しく、日本だけでなく、世界中がウィズコロナという新しいモデルを構築すべく、チャレンジしています。

韓国も同じ状況ですが、少しでも体力の減少をふせぎたいということで、啓発活動に力を入れています。高齢者が外に出てはいけない中で、どう運動したらよいかわからないため自宅でできるバランストレーニングをと思いオンラインでも試してみましたが、簡単ではなかったです。まず、高齢者はオンラインに抵抗があり、なかなか繋がってもらえませんでした。また、人と会うのが目的で体操に参加していることもあり、継続という点でも難しいことがわかりました。今おっしゃったことはどの国でも同じ状況で、あの手この手で取り組んでいます。

(ロシア審査員)

今おっしゃったことは豊島区、日本だけではなく、世界中同じ課題で皆がどうにかできないかと思って取り組んでいるなあとと思います。コロナ禍で、今までと違うアプローチをしなくてはいけない中で、みんなが手探りだと思っています。確かにチョ先生がおっしゃったように、インターネットを使ったハイテクな方法は高齢者にとっては難しい方もいらっしゃるかもしれませんが、皆が使わないわけではないので、ダメだと思わず、どうやったら使えるようにしていけるかを考えるのも一つの方法だと思っています。例えば高齢者は、LINE なら使うのか、何だったら違和感なく使ってもらえるのか、私たちルーマニアではどうチャンネル、方法を増やせるかを考えています。コロナ前の、元のように 100%戻らないと思います。インターネットのメリットがあるとわかりましたので、垣根を下げるのも一つだと思い、私たちも試行錯誤しています。高齢者にやさしいハイテクって何かを考え、ヨーロッパでは割と元の生活に戻って来ていますが、もうハイテクを使わなくてよいというわけではなく、ハイテクも一つの得たもの、新しいツールとしてどのように使っていくか、継続してチャレンジしているところです。日本でも、LINE なら子どもに教えてもらえるかな、高齢者もこれだったら使えるかなと考えるのも一つの方法かなと思います。回答にならないかもしれませんが、同じ問題に取り組んでいる者として、コメントさせていただきました。

(セーフコミュニティ推進室長)

ご発言の委員の皆様、ありがとうございます。時間となりましたので、懇談は以上といたします。貴重なご意見、また審査員の皆様からは的確なアドバイスをありがとうございました。それでは最後に、日本セーフコミュニティ推進機構の白石先生から、閉会のご挨拶をいただければと存じます。白石先生、よろしくお願いいたします。

(白石先生)

皆様おはようございます、白石です。本日より3回目の認証に向け、現地審査が始まります。本来ならこちらに来ていただいて、皆様とお顔を合わせて審査していただけるとよかったのですが、このような状況です所以画面を通してとなります。ぜひこの5年間の取組を審査員に見ていただいて、また他の、日本のセーフコミュニティ認証自治体の皆さまにも見ていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(セーフコミュニティ推進室長)

以上をもちまして、開会式及び豊島区セーフコミュニティ推進協議会を終了いたします。本日の現地審査は、午後 1 時 30 分より開始いたします。明日以降は午前 11 時開始となります。傍聴可能ですので、ご興味のある方は、是非傍聴いただければと存じます。皆様、長時間にわたり、ありがとうございます。